横浜市立今宿小学校　　令和5年度 学校評価報告書

重点取組分野	令和　5　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸと思考ｽｷﾙを活用して授業改善 ②主体的・対話的に学ぶ姿を育成するための授業研究③カリマネ計画作成 ④一人ひとりの学力向上のため少人数指導や教科担当制など指導方法工夫　⑤主体的に学ぶ姿育成のための読書活動や家庭学習	今年度は、自ら学び、自ら考える子の育成を目指し、「分かった」「できた」と児童一人ひとりが実感できるよう、授業づくりを行ってきました。学習意欲は上がってきてはいますが、学習状況調査の結果を見ると、ほとんどの学年が依然として市の平均を下回っている現状です。今後も引き続き、授業改善の取組を継続し、家庭学習の習慣をつけていくための支援を行っていきます。	A
豊かな心	自分とみんなを大切にする子の育成のため①多様な考えを認め合う「道徳の時間」づくり ②社会的スキルを育む社会的ｽｷﾙ横浜ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの実施 ③確かな人権感覚・意識を育む人権学習ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ ④互いのよさを認め合い、助け合おうとする仲間意識を育む異学年活動	多様な考えを認め合ったり、考えを広げたりできるように指導したことで、他者を認める意識へと繋がっているように思われます。 一方で、自分のよさを感じていない児童が2割程度いることから、家庭とも連携をし、児童のよいところに目を向けていくことが大切になってくると考えます。また、自己肯定感を高めるために、社会的スキルを育む社会的スキル横浜プログラムをより意図的・計画的に実施していきます。	A
健やかな体	①自ら運動に親しむ態度育成のため体育授業・休み時間・体育行事・一校一実践 ②自ら健康に過ごそうとする態度育成のため健康教育・食育・薬物防止教育・放射線教育・スマホ教室	体育の授業改善や運動会への取組、運動委員会による「縄跳び」を通して、休み時間に運動する児童が増えました。進んで運動に親しむ態度の向上が見られます。 自ら健康に気を付けて生活する態度については、栄養職員を中心とした食育指導や保健委員会の「睡眠」の取組を通して、よい傾向にあると思います。一方で、1日当たりのPCやタブレット、ゲーム機などで動画を見たりゲームをしたりする時間が60分を超えている児童が半数を超えていることや、高学年になるにつれて生活習慣を整えられない児童の割合が増えていることが分かりました。前述の取組を継続するとともに、外部と連携し、より授業改善に努めていきます。	B
キャリア教育	①自己理解のための自分づくりパスポート活用 ②集団の課題を主体的に解決する力を育成するための実行委員活動、クラブ・委員会、児童会活動、卒業に向けた活動、児童生徒交流、宿泊学習、校外学習、出前授業	行事ごとに自分のめあてを立て、めあて達成に向けて頑張るという経験が、児童の自信につながっているようです。また、実行委員などクラスや学年のための活動を行うことで、達成感や充実感を感じている児童が多いです。自分づくりパスポートや実行委員などの取組を継続するとともに、高学年においては、学校全体のために進んで活動しようとする意欲がもてるよう支援していきます。さらに、課題を見つける目や問題を解決していく力を付けていきます。	A
国際教育・ESD	①外国語（英語）に親しむための外国語活動、外国語科②多様性を認めるためのIUI授業や様々な学習を通した外国文化の学習③外国文化理解を深めるための、各教科等を通した日本文化の学習④課題に気付き解決しようとする力育成のためのESD学習プログラム⑤情報化社会に対応できるようになるためのプログラミング教育、情報教育（スキル，モラル，シチズンシップ）	外国への関心は低くはないですが、より児童の意欲を上げるために、AETと連携し、授業改善を進めていきます。 課題に気付き解決する力の育成を意識して、総合的な学習の時間等を行うことで、児童の意識を高めることができました。付けたい力を意識して授業をつくっていきます。 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思っている児童がとても多いです。職員のプログラミング教育や情報教育の知識・技能を高めてより良い授業にしていきます。	B
児童理解・指導/特別支援教育	①誰もが安心・安全に過ごすために統一した児童指導 ②適切な特別支援教育のため関係機関や家庭と連携 ③一人ひとりにあった指導をするため国際教室・特別支援教室実施、支援員活用、個別の指導計画・支援計画の作成	誰もが安心・安全に過ごすために今宿スタンダードや朝会を活用し、指導したことで、児童がルールを守って生活している意識が高い傾向になっていると考えられます。家庭での今宿スタンダードの活用が少なかったので、より活用していただけるように学校から積極的な発信を継続的に行っていきます。 一人ひとりのニーズにあった指導を担任、国際担当、特別支援担当、支援員と連携を図りながら行いました。次年度も、ニーズに応じて支援が行き届くように努めていきます。	A
いじめへの対応	①児童の状況把握やいじめの早期発見のため定期的なアンケートや児童・保護者面談 ②組織的に寄り添った対応するためいじめ防止対策委員会を定期的に開催 ③いじめを生まない学校づくりのために横浜こども会議に参加 ④健全育成のため関係機関（警察・児相等）と連携、「いじめ防止基本方針」の見直し	「いじめはどんな理由があってもいけない」の質問に対して、ほぼ10割に近い児童が肯定的な回答をしている点から、いじめはしてはいけないものという日頃の指導が児童に浸透していると考えられます。ただ、少なからず否定的な回答の児童がいることから、いじめはどんな理由があってもいけないことだと児童自身が思えるような指導を続けていきます。また、困ったときに相談できる割合が8割と高いものの2割の児童が否定的な回答なため、今後も児童が安心して話せる関係づくりを進めていきます。	A

信頼される学校づくり	①安全・快適に生活するための環境づくり ②防災防犯意識、安全意識を高めるため避難訓練や防災防犯安全活動 ③信頼される学校づくりのため学校広報、ホームページ、参観、懇談会、説明会、学校評価、保護者ボランティア募集、不祥事防止研修 ④入学や進学の不安軽減のため幼保小連携、小中連携	月1回の安全点検をはじめ、敷地内の安全を確認し迅速に修繕に取り組みました。避難訓練や不審者対応訓練など児童の防災意識を高める訓練を実施しました。学校HP、メール、学校便りや授業参観、説明会、学校評価などを通して学校の様子を積極的に発信しました。月1回以上の不祥事防止研修を実施しました。幼保小、小中の連携を積極的に行いました。次年度は学校広報を見直し、職員間、幼保小、小中の連携を確かなものにしていきます。	B
人材育成・組織運営（働き方）	①キャリアステージに応じた人材育成②人権研修、初任者研修の実施、メンター研修の充実化③マネジメントを意識した予算委員会④学校運営の効果的効率的運営により充実とスリム化を推進⑤日課表の工夫	自身のキャリアステージに応じて、目標設定し達成に向けて活動することができました。校内での研修を通しても、自身の教育に生かすことができています。日課表を工夫することで、効果的で効率のよい運営になるように行動したり、児童の情報交換や教材研究など学年や職員間で話し合ったりすることができました。一方で、昨年度よりも時間外に働いている職員が半数以上います。より計画的、効率的に仕事ができるように工夫してきます。	A
地域連携学校運営協議会	①まちを大切にする心育成のため学校・地域コーディネーターとともに、地域や社会教育と連携して「放課後自習室」「おはやしクラブ」「地域店舗と連携した学習づくり」を実施②児童の安全安心な環境づくりのためPTAと連携③学校運営協議会等において地域と連携	地域コーディネーターと共に作成した、「生活科・社会科・総合的な学習の時間に関われるお店」の一覧を活用して、授業をすることができました。 放課後自習室やおはやしクラブに参加する児童も増えてきています。おはやしクラブは、様々地域の行事にも参加しました。 保護者の校外委員会、地域の見守りの方々と連携して児童の安全安心な環境づくりを継続しています。 学校運営協議会では、各小中学校の情報交換や地域の方との話し合いを行いました。	A

ブロック内評価後の気付き	・教職員が主体的に学校運営に携わろうとする姿勢が窺え、伸びしろや改善意欲を感じます。 ・キッズやお囃子クラブを活用し、子どもが地域活動への参加が促されており、地域からも理解されているように思います。 ・多様性についての学校の取組姿勢が、保護者や地域に伝わっていると感じます。 ・アンケート項目から、子ども自身が持続可能な将来の担い手として自律していくことを望む学校の姿勢が窺えます。
学校関係者評価	着実に成果が出ている。 ・今年度アンケート項目を見直したが、横浜市学力学習状況調査や全国学力学習状況調査の質問項目を同じにした方が、市や全国と今宿小学校の状況を比較でき、数値の意味が分かるようになるし、その方が業務の効率化にもなる。 ・重点取組分野ごとの振り返りには、Check（評価）とAction（来年度に向けた改善策）を書くとよい。そうすることで次年度の方向性がはっきりとしてくる。 ・組織として成果を上げるために、教員を挙げて取り組む内容を「学習プログラム」として作成し取り組むとよい。

中期取組目標振り返り	重点取組分野10のうち総括Aが6（60%），学校評価項目全189のうち目標値を上回ったり実施した項目が170（89.9%）となりました。「自分にはよいところがある」と答えた児童が調査開始後初めて80%を超えました。グループワークやふれあい班活動などを通して他者から評価される機会が増え、自己有用感が高まったからだと考えています。次年度もこれらの取組は継続していきます。家庭でのゲームや動画視聴の時間についてやスタンダードの活用については改善できるように取り組んでいきます。また、時間外の勤務が少しでも減らせるように取り組んでいきます。コロナが明けて地域貢献の項目の数値が上がりました。次年度も地域とのかかわりを大切にしていきます。児童が相談しやすい大人を増やせるよう保護者、地域の皆様とともに温かい学校をつくっていきます。